

会報 いづこうげん

秋号
2025
No.
11月1日発行

76



☆60周年記念号 保存版

- ◇親和会の成り立ち・親和会の組織
- ◇特集記事① 隣地の困り事 特集記事② 親和会を振り返る
- ◇伊豆高原開発の歴史あれこれ「これから」を考える
- ◇防災訓練について ◇イベント情報 ◇伊東ミニバス運行



伊豆高原親和会

静岡県伊東市八幡野1208-95 ☎0557-53-1122



親和会公式掲示板



はじめに

伊豆高原親和会(以下、親和会と略します)は、本年4月に60周年を迎えました。還暦を過ぎたお爺さんになったわけです。

だからという訳ではありませんが、今年度の新役員体制になって、親和会の組織に若干の変更がありました。そこで、今号は60周年記念号と題し、還暦を過ぎて「生まれ変わった親和会」を紹介しします。

会員の皆様は、同封した「規約」「自主規制」「防災マニュアル」の三点セットと共に、この会報を是非、手元に残しておいていただき親和

会を知る資料として参考にして頂ければ幸いです。

親和会の成り立ち

昭和36年(1961年)12月に伊豆急行線が全線開通し、翌年から伊豆高原分譲地の造成が始まりました。昭和40年(1965年)7月に、第二期(1次～9次)分譲地の造成工事が完了し、昭和46年(1971年)に第二期(10次～26次)分譲地、昭和49年(1974年)に第三期(南大室台)分譲地の造成工事が完了しています。第一期の造成工事の最中、昭和40年(1965年)4月に伊豆高原親和会が設立されました。

何もない土地に別荘地を建設したのですが、東急と一緒に別荘地を開発したようなものですから、自分たちの手で素晴らしい別荘地を作ろうという気概があった、伊豆急とともにこうした企業の方々が親和会の設立・運営に協力してくれました「今では想像もつかない原野に、2本の幹線道路(伊豆高原桜並木と桜トンネル通り)が敷かれ、その周りに別荘、保養所がわずかに建っているだけという景観だったと思います。このような時代に、将来を見据えた別荘地開発を担う組織が出来ていたということ誇りに思っただけではないでしょうか。

ここにある「自分たちの手で素晴らしい別荘地を作ろう」という創業者精神は、今でも脈々と受け継がれていると思いますし、しっかりと継承していく必要があると思います。

なお、親和会の歴史について、もう少し知りたい方は、上記の記事

の他、会報いづこうげんNo.69(2022年春号)からNo.74(2025年冬号)まで6回に渡り連載された「親和会のあゆみ」をご覧ください。

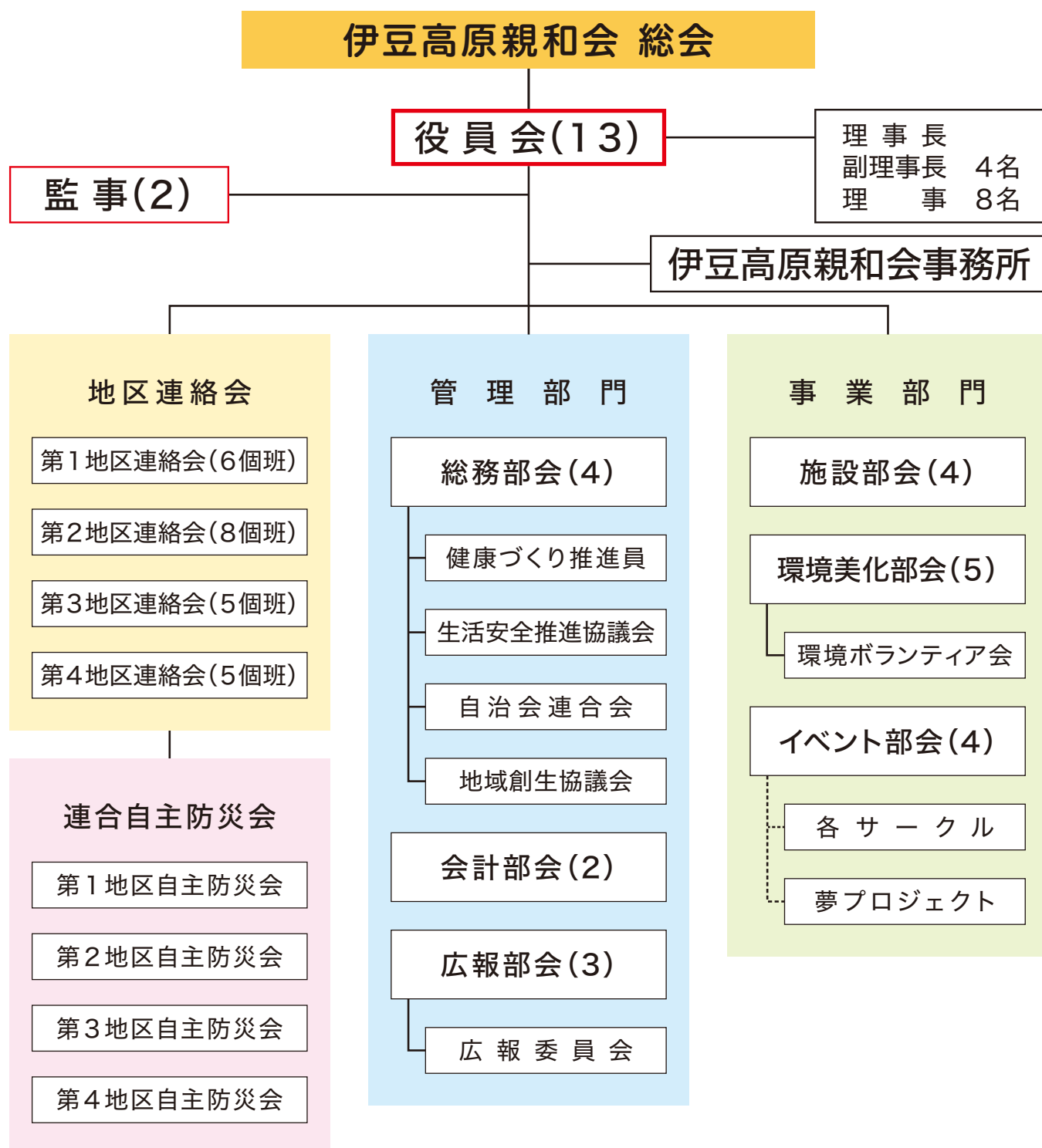
親和会の組織

次項に今年度の親和会の組織図を添付します。親和会の本会は、管理部門と事業部門に分かれ、下部組織として自主防災組織を兼ねた地区連絡会が付属します。前年度からの変更点は二つです。一つは、自主規制部会が廃止され、自主規制の改訂等は総務部会に、運用は環境美化部会に移されました。一つは、道路部会が施設部会に名称が変わり、側溝、浸透池の維持管理が環境美化部会から施設部会に移されました。各部会の紹介は、別項に譲ります。

親和会の本会は、理事長、12名の理事、および2名の監事で運営されています。しかしながら、これだけの人数では、とても運営に手

が回らないので、二つの組織が設置されています。一つは、規約第2条に規定する「伊豆高原親和会事務所」(以下、事務所と略します)で、(株)伊豆急ハウジングとの業務委託契約に基づいて、本会の業務の一部を委託しています。なお、事務所の職員は、親和会に属さない伊豆急の分譲地を管理する「伊豆高原管理事務所」の職員を兼ねており、親和会の専属ではなく、委託している業務も一部に限られています。もう一つは、会員の有志からなり、各部会の業務をサポートして頂いている組織で、広報部会配下の広報委員会、および環境美化部会配下の環境ボランティア会です。

その他に、総務部会では、地域の諸団体に役員を派遣し、イベント部会では、親和会の自治活動を担うボランティアグループ(複数のサークル、夢プロジェクト)に協力しています。



それでは親和会に属する組織を簡単に紹介していきます。

総務部会

総務部会は、その名の通り、親和会の事務全般を取りまとめる部会で、総会、役員会の運営、規約、規程類の整備、対外的な契約に関する事など、多岐に渡る業務を担当しています。理事長を補佐して、会務を円滑に進めること、行政機関、他の自治会組織との連携に関する事、ここに紹介する他の部会の所管に属さないことなども含まれ、理事長を含む4名の陣容では、手が回りかねている状況です。と、弱音を吐いている暇なく、今年度の重点施策は、①「生まれ変わった親和会」を体現するために、規約を含む規程類を今一度整備すること、②会務に関わる資料の電子化を進め、データの蓄積を図り、業務効率を高めたり、業務引継を円滑にすることの二点です。

会計部会

将来に向けた財務基盤の

強化と発展。

この二年間、私たちはより適正な会計を目指し、会計規定や費用科目の整備に尽力して参りました。現在、健全で透明性の高い財務運営の基盤を確立できたことは、会員の皆様のご理解とご協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。

しかし、より強固な財務運営の実現には、今後とも取り組むべき課題があります。

まず、2%弱の会費未納会員への対応です。会費未納者の不当な便益享受に対し強い姿勢で臨みます。次に、予算策定のさらなる効率化と適正化です。事業別・目的別の予算管理を強化し、限られた会費を最大限に活用できるよう改善します。これにより、単年度の収支計画だけでなく、長期的な修繕計画や将来的な事業計画を見据

えた、より戦略的な予算配分を可能にします。

今後も、皆様の大切な会費を最大限に有効活用するため、簡潔かつ明瞭な会計を継続し、財務運営の透明性をさらに高めてまいります。また、会員の皆様が会の活動に積極的に参加し、価値を実感できるように予算の使い道を提案してまいります。皆様と共に、この別荘地が持続的に発展していくための財務基盤を築いていきたいと考えております。

広報部会

未来へと紡ぐ、広報の新章

この二年間、広報部会・広報委員会では、情報発信のあり方を根本から見直し、より豊かで心に響くコンテンツの創出に力を注いでまいりました。年二回発行の会報は十二頁へと拡充され、月刊の定住会員向け情報誌も四頁構成へと進化。さらに今年度からは、会報を年三回、情報誌を年六回発行す

ることで、より細やかな情報提供を目指しています。これもひとえに、皆様からの温かなご支援とご期待の賜物です。

さて、今年六月より「広報という」の配布方法を、戸別配布から各ゴミステーションでの「置き配」へと変更いたしました。これは、配布員のご負担を軽減するとともに、これまで情報に触れづらかった別荘会員の皆様にも、必要な情報を気軽に持ち帰りいただけるようにとの新たな試みです。

今後は、別荘・定住の垣根を越え、すべての会員の皆様に向けた広報活動をさらに充実させてまいります。地域の魅力やイベント情報はもちろん、自治会活動の舞台裏なども積極的に取り上げていく予定です。公式ホームページも、情報発信の拠点として、より一層の充実を図ってまいります。

広報誌を通じて、別荘地全体がひとつのコミュニティとして息づくような、有益でありながら心躍る

コンテンツづくりに努めてまいります。未来へと続く広報の新章に、どうぞご期待ください。

施設部会

施設部会は、各地区から1名選出し4名の理事で構成されており、また、毎月会議を開催し会員からの要望や業務の進め方について協議を行っております。

施設部会の主な業務は「道路(46km)、側溝(90km)、浸透地の清掃及び樹木の伐採、街路灯」の維持管理になります。これらの施設を今後も正常に維持するために、は年々高額な費用が必要とされます。今年度の道路補修工事予算は2千100万円、この金額の範囲で道路補修工事を収めるには本来必要な補修箇所の工事を実施することができません。また、側溝の損傷箇所についても点検を行い、必要に応じて補修工事を実施して、いますが全体的に傷みが激しく、更なる補修工事が必要になります。

浸透地(34か所)の汚泥清掃や年月とともに数十メートルに成長した樹木の伐採や緑地(5か所)内からのみ出し草木についても年1回業者による草刈りや清掃を実施し対応しています。

街路灯については、890灯(内訳/LED857灯・水銀灯33灯)の内、水銀灯は2027年で終了するため33灯の水銀灯をLEDに本年交換する予定です。

伊豆高原親和会も発足60年余りが経過し、様々な施設の老朽化が目立つようになりました。会員皆様方の資産価値を高めるためにも「設備の維持管理は必要不可欠」であり皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

環境美化部会

日頃より親和会活動の一環としての景観維持や環境美化へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。将に会員皆様のご理解とご支援を頂いてこそ可能な活動

であります。

親和会は今年60周年を迎えましたが、当時から庭木や樹木も同様に「大きく成長し更に巨大化」しており、親和会全体の景観維持の為に、はみ出し草木・樹木・倒木・ゴミステーション(GS)等への迅速かつ不断の対応が求められています。一方、予算、人手、近年の異常気象などに拠り全てに対応することは叶わないことから、景観や環境美化状況の悪化の懸念もあります。更には、会員の高齢化、別荘利用滞在日数の現状から、ご自宅周りの清掃と美化並びにゴミステーション(GS)の良好な状況を維持して行くことが難しいのも現状です。

現在、親和会の道路総延長は45.6km、その両側の側溝は約90kmあり、その仕事量を3名の作業員でカバーすることはまことに困難な状況にあることはご賢察の通りです。今後の景観維持・環境美化に依る「親和会の資産価値維持

・向上」は会の目的である「会員利益の向上」に資する課題ですので、部会のみならず会全体で積極的に対応を進めたいと念じております。

以下、環境美化部会の主な役割です。

- ①ゴミステーション(GS)の維持と管理
- ②道路や側溝からはみ出し草木の伐採
- ③側溝の土・泥の除去
- ④住宅から道路へのはみ出し樹木のチェックと伐採依頼(要請)
- ⑤倒木の恐れのある樹木の伐採依頼(要請)
- ⑥ヤスデ対策(第3・第4地区)・各地区の一斉清掃デーへの対応
- ⑦民泊業者への対応(規約または自主規制)

今後とも環境美化部会活動へのご理解とご支援、並びにご忌憚のないご意見やご要望をお聞かせ頂ければ幸いです。

イベント部会

コロナで暫く中断していた餅つき大会が2023年(令和5年)に再開しました。イベント部の活動

としては、それまで唯一の催し物でありました。来場会員は150名

ほどに達し、親和会会員が参集する会合のなかでは最大級で「この

人出を見ると親和会を実感します」と述懐した会員がいるほどです。夢プロメンバーの尽力で供され

た「出来たて餅や豚汁など」の美味しさは人口に膾炙していました。ところがコロナ禍による衛生意識

の強まりは食品衛生法の適用の厳格化ならびに開催場所に関わる

制約に繋がり、残念ながら餅つき大会は中止の止む無きに至りました。

他方、イベント部の活動の一新を図り2024年から講演座談会を

企画。知識と経験豊富な親和会会員有志からお話を伺う機会を設

け、会員間の意見交換や交流促進

の場を提供することを目標に、嚆矢として一連の講演会を催しました。参加は各回平均15名程度でした。

【2024年1月】

伊東消防署八幡野分署／心肺蘇生法の実演教習、救急要請時の注意点など。

【2024年4月】

伊豆ガーデニングクラブ会長植松氏／伊豆の植物、雑草対策など。

【2024年11月】

伊東警察署生活安全課／特殊犯罪と対策について。

【2025年3月】

伊豆半島パークガイド齋藤氏／伊豆半島の地質を知る。

【2025年7月】

伊豆歴史文化研究会芹沢氏／大室山の堰止め湖(池)と葦山代官江川氏

これらのほか、「能登半島災害支

援募金断捨離フリママーケット」を

池生涯学習センターで2024年

7月に開催し二日間の来場者数は

150名ほど。来場者および出店参加会員からの浄財は5万円を超え日本赤十字社経由で寄付されました。伊豆新聞および地元TV局の取材があり報道されています。来る12月に第2回フリママーケットを企画していますが、此度伊東市役所より「伊東市後援」名義使用が承認されました。会員多数の参画を期待します。

地区連絡会

伊豆高原親和会は、規約第17条に記載されているように、4つの地区に分けて、それぞれ地区連絡会を設置しています。

地区連絡会は、親和会の執行機関であり、会長1名、副会長複数名からなる役員会と、班長複数名を含む班長会とが設置されています。また、地区連絡会は、伊東市の自主防災組織も兼ねています。地区連絡会は、地区内の困り事を自ら解決し、必要ならば親和会本会に要望し、生活環境の維持向上に

努めること、会員相互の交流親睦を深めること、防災・防犯・安全衛生などを含む地域づくりに努めることを目的とし、規約第17条第5項に規定された事項に取り組んでいます。

後述する親和会マップを参照して、ご自分の属する地区、班を今一度ご確認ください。上述した活動について、問い合わせ、意見、要望などがありましたら、まずはお住まいの地区、班を担当する班長に連絡してください。

また、例年7月、11月、3月の第2または第3土曜日に「地区連絡会会合」が開催されています。全ての会員が参加できる会合で、親和会、地区連絡会から会員への連絡のみならず、会員から親和会への御意見・要望を伺う貴重な場です。各地区の紹介を別項に記載します。

自主防災会

伊東市の自主防災組織の一つとし



て「伊豆高原親和会第〇地区自主防災会」が、各地区ごとに設置されています。そして、地区連絡会の役員が、自主防災会の役員を兼ねることになっています。さらに、4つの自主防災会を取りまとめる「伊豆高原親和会連合自主防災会」が本会の下に設置されています。

主な活動は、毎年9月第1日曜日の総合防災訓練と、12月第1日曜日の地域防災訓練とがあります。親和会には、5つの防災倉庫があり、消化器、チェーンソー等の障害物除去用具、救急用具、投光器等の避難用具、鍋、釜等の給食給水用具が備蓄されています。

ここからは、親和会と連携している自治会組織を紹介します。

伊東市健康づくり推進委員

健康づくり推進員は、今年度から「保健委員」の名称を改め、従来の組織を見直して、新たに活動を始めました。推進員は、市民の健康の保持及び増進を図るために、住民と行政の橋渡し役を担い、自治体（伊東市）から委嘱を受けて活動しています。主な職務は、健（検）診及び子育て支援事業の推進及び協力に關することです。

一人でも多くの住民が、健（検）診を受けて健康を維持できるよう、5月に健（検）診PRポスターの掲示やチラシ配布活動で、伊東市からの発信を住民に繋ぎました。また、子育て支援事業の推進として、母子保健事業協力員は、「すこやか育児教室」（生後3〜5か月の乳児と保護者対象に離乳食の実習や身体測定、保健相談な

ど）に参加している保護者の赤ちゃんのお世話や子守りのお手伝いを年間6回、偶数月にさせて頂いています。

健康づくり推進員の活動は、一人でも多くの方に知っていただくことが、ご本人と地域全体の健康（ウェルビーイング）につながります。

ぜひ、ご協力をお願い致します。

伊東市生活安全推進協議会

会員の方には余り聞きなれない「伊東市生活安全推進協議会」について触れておきたいと思います。

伊東市生活安全条例は、2008年4月1日に施行されました。

本条例は、「市民が安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すため「市、市民、事業者」が一体となり、あらゆる犯罪や交通事故による被害を防止し、これらが発生させない環境づくりを基本とした条例です。（一部伊東市資料抜粋）

また、2019年7月1日に、第9条（生活安全推進協議会）が新たに更新されました。主な主旨は「安全に安心して暮らせるまちづくり」を目的とし、防犯や交通安全に関わる市民の安全に関する問題を広く協議し解決するため、関係団体の代表者らで構成される協議会です。市民一人ひとりの取り組みと連携により犯罪や交通事故のない明るいまちづくりを目指し活動しています。

伊豆高原親和会も関係団体の一員として参加し、春秋の交通安全運動を実施したり、交通事故発生件数、窃盗、傷害、流動型詐欺による各被害状況等を把握し、これらの情報を共有することにより被害を防止し安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

伊豆高原連合自治会

伊豆高原地域創生協議会

伊豆高原エリア

まちづくり協議会

親和会(2810区画、定住980世帯)は近隣の大室高原自治会(4500区画、定住1400世帯)、すいらん別荘地管理会(950区画、定住360世帯)と3団体で「伊豆高原自治会連合会」を形成、伊豆高原に展開する自治会の共通課題を協議、情報交換しています。専らの共通課題は開発から50年以上を経ての道路、水道、排水施設の老朽化対策で、共同戦線を組んで行政との交渉を行っています。

その一方で伊豆高原の地域文化発展を目的に上記3自治会で2008年「伊豆高原を考える会」を組織、伊東市景観条例に基づき景観形成推進団体としての認定を得ました。しかし同条例の認定団体ではメガソーラ反対運動に参画できないとの市の指導があり、2017年に「伊豆高原地域創生協議会」に改組、住民の視点から行政への政策提言に取り組むことになりました。

2022年に発足した「伊豆高原エリアまちづくり協議会」(まち協)は、伊豆高原で活動する15の環境、福祉、文化団体が集合したもので、「伊豆高原地域創生協議会」も参画団体の一つです。まち協は、行政区、自治会、伊豆急、住民団体、地元漁師会など多様な地域の立場の声を束ね、いつまでも住み続けたい伊豆高原を目指して行政と協業する活動を行っています。

地区連だより

〈第一地区〉

私たちの地域には「伊豆高原校のトンネル」があります。大変有名な名所地でシーズンとなる毎年3月下旬から4月上旬には桜祭りが開催され多くの観光客も訪れ賑わっています。また、2月に行われる「大室山の山焼き」は伝統的な行事で春をつげる風物詩になっています。

さて、第一地区は南大室台地域

(定住者名簿／106世帯269名)と伊豆高原地域(定住者名簿／258世帯447名)の会員の方々が生活をされています。また、分譲地番号も南大室台1次から3次と伊豆高原4次から11次の2系統になっています。

地区の主な年間行事は「地区連絡会3回、班長会3回、総合防災訓練、自主防災訓練、防災倉庫の点検」になります。

地区連絡会では、「道路補修工事、道路はみ出し樹木、浸透地の樹木伐採等工事の実施報告、理事会決定事項の報告ならびに総合防災訓練(本年度より11月開催)、新役員(地区会長)の選任、新旧班長引継確認」の他、地域内の諸問題についても協議を行っておりま

す。班長会では、道路補修箇所や道路はみ出し樹木の調査、総合防災訓練(OK旗の確認と報告、防災倉庫の点検)、新旧班長の打ち合わせ、新名簿配布・連絡方法の確

認等について協議しています。

私たち役員一同(理事3名・班長10名)は、会員の皆様方が「安心・安全・快適」に暮らせる地域を目指し努めてまいりますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

〈第二地区〉

第二地区は、国道の山側、伊豆高原駅から続く桜並木通りを中心に、なだらかな斜面に広がるエリアです。春には大室山に向かう桜のトンネルが満開となり、多くの観光客が訪れる伊豆高原の象徴的な景観を見せてくれます。

第二地区には913の区画があり、定住は356世帯679名のほりまです。親和会の中でも区画、定住世帯ともに最大規模を誇ります。美術館やカフェが静かな賑わいを見せ、四季折々の魅力が住民と来訪者を惹きつけています。定住・別荘を問わず、皆様が枝木の剪定や道路の清掃など、環境

保全に積極的に取り組まれていることも、この地区の大きな特長です。そのおかげで、地区内の不動産は高い人気を保ち、売りに出されるとすぐに買い手が見つかる状況が続いています。

第二地区内には20か所のゴミステーションが整備され、19名の班長の皆様が日々の環境維持にご尽力くださっています。美しい景観と住民の協力が調和する第二地区は、伊豆高原の中でもひととき誇り高い存在の一つです。

〈第三地区〉

第三地区は、伊豆急行城ヶ崎海岸駅周辺の第1〜第3班、および県道伊東川奈八幡野(109号)線南側の第4班と、少し離れた伊豆高原駅南側の第5班からなります。区画数は611、2025年4月現在、定住者登録届出のある世帯数は168世帯です。他の地区と比較すると、鉄道の駅、郵便局、商業施設などに近く、自

動車運転免許を返納しても、何とか生活できる比較的便利な地区と言えます。

個人的には、他の地区と比較して地の利があることから、別荘会員の来訪の機会も多く、比較的環境がよいと思っていますが、ヤスデの大発生、観光公害(特に、ゴミの不法投棄)、管理放棄地の増加など、近年、好ましくない話題が増えて困っています。定住会員のみなさん、別荘会員も含む会員の皆さんの協力を得ながら、問題の解決を図りたいと思います。

〈第四地区〉

親和会の4つある地区の中で、最後に開発された分譲地で、21回から27回が該当します。

国道135号線の南側に位置し、夏は海からの涼風、冬は雪が降らない温暖な気候です。春には、伊豆急城ヶ崎海岸駅から門脇の吊り橋へと続く桜並木の満開の桜を満喫しながらの散策もお薦めで

す。

そして、ダイナミックな断崖の城ヶ崎海岸やスリリングな門脇の吊り橋を渡って眺める眼前の伊豆大島、素晴らしい景観と豊かな大自然がお楽しみ頂けます。

そんな自然豊かな第四地区には、区画数580件に対し、現在約400名が定住されています。定住者数としては、4つの地区で最も少ない人数ですが、地区連絡会には常に多くの方々にご出席頂き、新たなご提案や改善要望等の活発な議論や意見交換は、他の地区同様、第四地区を、更には親和会を良くして行きたいとの熱意を心強く感じています。

これからも心豊かに、「安全で安心して快適に」暮らせる第四地区を、皆さんと目指して行きたいと思っています。

親和会マップ

次項の図は、親和会防災マニュアルに資料3として添付されている

るマップに、編集を加えた図です。

※白抜き丸数字で、各地区の班を示すとともに、白枠黒数字で分譲地番号の次数を示しています。ご自分の属する地区、班を今一度ご確認ください。

※ゴミステーション(GS)の位置を加えています。会員であれば、どのGSでも利用することができますが、普段利用するGSについては、班ごとに行なっている清掃にご協力ください。

※各地区に設置されている防災倉庫の位置と断水時に給水を受けることができる配水槽の位置が示されています。大地震発生等に備え覚えておきましょう。







隣地の困り事

お隣さんの困り事、いつの時代も、何処においても悩ましい問題です。基本的には当事者間で解決して頂くしかありません。規約にあるように、親和会の目的は、会員相互の交流親睦を深めることにありますが、お手伝いできることは非常に限られています。以下に、親和会の対応方を記しますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。



例えば、分譲地から隣地へのはみ出し樹木、騒音、悪臭などの迷惑行為、特定の会員に対する個別具体的な要望(自主規制に関する要望など)などについては、親和会は関与できないので、事務所に連絡を頂いても「当事者間で協議して欲しい」と回答せざるを得ません。

当該分譲地の所有者が定住会員である場合、困っている隣地の会員は、直接所有者に当たって頂くしかありません。親和会は仲裁できません。

当該分譲地の所有者が別荘会員または土地会員であって、連絡先が分からない場合、親和会は、困っているからと言って、隣地の会員に所有者の連絡先を教えることはできません。隣地の会員に代わって、事務所から所有者に電話、メール等の連絡は一切致しません。事務所が仲介することによる連絡上の齟齬を避けるためです。唯一できることは、隣地の会員自らが、分



譲地の所有者に送付する書面を作成して頂き、事務所にて書面を封緘し、所有者に郵送することです。以後のやりとりは、分譲地の所有者と隣地の会員との間で行なうて頂きます。

関与しないにしても相談くらいはできないのかと思われるかもしれませんが、この場合は、お困りの会員の地区の地区連絡会の会長または副会長に相談してください。お近くの班長を介して地区連絡会役員に連絡頂いても構いません。親

和会の組織で説明したように、事務所には親和会の業務の一部を委託しているだけで、このような相談に乗ることができません。地区内の困り事については、地区の実情を把握している地区連絡会役員に連絡してください。



親和会を振り返る

親和会の60年を振り返る企画ですが、親和会の活動だけでは寂しいので、伊豆高原の開発の歴史とともに、親和会を振り返ります。



伊豆高原開発の歴史あれこれと

「これから」を考える そのころあなたは？

1960年～1970年代

何もかもがイケイケどんどの高度経済成長期でした！

1956年(昭和31年) ○池財産区は隧道復興のため岩室山一帯10万坪を(株)東拓に売却

1957年(昭和32年) ○(株)東拓 理想郷と命名してシャボテン公園周辺4800区画分譲開始

1959年(昭和34年) ○(株)東拓 メキシコのイメージでシャボテン公園開園

1960年(昭和35年) ○伊豆スカイライン開通

1961年(昭和36年) ○東急(五島)宿敵西部(堤)を押さえ伊豆急行が下田まで開通

1962年(昭和37年) ○シャボテン公園八幡野モノレール計画伊東水族館(現マリントウン)オープン

1963年(昭和38年)

○小室山リフト開設

○日本のハワイ目指して海洋公園オープン

○伊豆高原別荘地2700区画分譲開始

○すいらん荘別荘地1000区画分譲

○アジアで初めて戦後復興のシンボル東京オリンピック

1964年(昭和39年)

○大室山リフト開設

○コスモランド(現グランパル)オープン

1965年(昭和40年)

○殖産浮山温泉郷分譲開始

○城ヶ崎のつり橋完成

○名鉄赤沢920区画分譲開始

○あかざわ恒陽台(900区画)分譲開始

○イトーピア一碧ゴルフ場跡地に1000区画分譲開始

1972年(昭和47年)

○伊豆急南大室台387区画分譲開始

1973年(昭和48年)

○伊豆急城ヶ崎分譲地334区画分譲開始

○石油ショック 県より土地開発禁止令

1970年代～2000年代

度重なる地震、バブルそして崩壊、リゾート21に踊り子号、テニスブーム、小さな美術館、伊豆高原駅大改造計画、ペンション、アンソン族にバブルの申し子

1974年(昭和49年)

○伊豆半島南部にM6.8の地震

1978年(昭和53年)

○伊豆大島近海地震M7

1980年(昭和55年)	○伊豆半島東方沖地震M6.7		○オンラインシステム導入
1983年(昭和58年)	○三宅島大噴火	2005年(平成17年)	○会報「伊豆高原」表紙のみカラー印刷
1986年(昭和61年)	○親和会会報「I・Z・U高原」発刊		○親和会40周年
1989年(平成1年)	○大島三原山2009年ぶりの大噴火	2006年(平成18年)	○会報全面カラーに
	○6月伊豆東方沖で群発地震		○定住者の増加で780件
	○7月伊東沖海底噴火(手石海丘)		○持ち主の変更・世代交代1300件
1991年(平成3年)	○ログハウスの城ヶ崎海岸駅	2009年(平成21年)	○規約改正、自主規制が議論される
	○小さな美術館いろいろ	2010年(平成22年)	○ヤステ問題初出、長い闘いの始まり
	○伊東宿泊客394万人ピーク	2011年(平成23年)	○東日本大震災、福島原発事故、大混乱の年
1994年(平成6年)	○伊豆高原駅改築 やんもプラザ開設		○Dogforest早くも閉園
	○アートフェスティバル始まる	2012年(平成24年)	○ヤステプロジェクト、親和会法人化の議論始まる
1995年(平成7年)	○1月阪神淡路大震災		
	○9月伊東群発地震発生	2013年(平成25年)	○伊豆半島ジオパークへの取り組み
	○バブル崩壊 地価下落		○小さなブーム「アサギマダラ」の来る里に
1997年(平成9年)	○親和会ミニ会報(レシラク)創刊	2014年(平成26年)	○総会開催が毎年伊豆で開催のこと。東京まで行く費用対効果なし。
	○GS裁判で親和会が被告に勝訴		

2000年～2020年
バブル崩壊後の定住者の増加

2000年(平成12年)	○定住者の増加で親和会総会を初めて八幡野地区で行う。以後隔年
2002年(平成14年)	○伊豆高原八景選定、伊豆高原讃歌の発表 ○伊豆高原駅前開発
2004年(平成16年)	○Dogforestとプロヴァンスの森構想 ○親和会エリアの樹木環境と放置樹木の行方
2018年(平成30年)	○メガソーラー問題が初出、伊豆高原地区にとつては初めての自然を守る住民運動 ○メガソーラー問題を考える 白紙撤回を求め ○ホテル伊豆高原閉館

2019年(令和1年)

- ガラス工芸美術館閉館
- 高齢化に伴い、自動運転サービスの実験
- 台風15号、19号で池地区山崩れ、市内全域で停電、断水にみまわれる

コロナ前とコロナ後、世界が社会が変わってしまった日々

2020年(令和2年)

- 東京オリンピックのはずが、コロナでぶっ飛んだ！マスク、ソーシャルディスタンス「今は来ないで伊豆半島」

2021年(令和3年)

- 東京オリンピック無観客開催

- 城ヶ崎文化資料館が「リングフランカ」としてリニューアルオープン

2022年(令和4年)

- 長引くコロナによるリモートワークが伊豆でも

- ロシアのウクライナ侵攻

2023年(令和5年)

- 会費月額1600円の使われ方が話題に

2024年(令和6年)

- 元旦早々の能登地震

2025年(令和7年)

- 親和会60周年

ご存知ですか？親和会いろいろ

【総面積】200万平方メートル(東京ドーム43個)

【会員数】2810件(定住者数980件)

【GSの数】50か所(処理する不法投棄重量約15t)



防災訓練について

この会報がお手元に届く前後に（11月16日）、伊東市総合防災訓練が実施されます。例年9月第一日曜日の実施でしたが、今年は11月に実施されることになりました。来年以降の実施時期については未定のようです。親和会では、この防災訓練には、連合自主防災会として参画し、家庭内訓練に加えて、事務所前の駐車場にて集合訓練を行なっています。



また、例年12月第一日曜日には、地区毎に地域防災訓練を実施しています。今年は、総合防災訓練を実施してから日が浅いため、各地区自主防災会にて、実施の可否を検討しているところです。詳しくは、別途、お知らせします。

イベント情報



今年も、親和会イベント部会の主催により、「被災地支援フリーマーケット」が行われます。

○12月5日（金）～6日（土）

○池生涯学習センター駐車場

前回は、能登半島災害支援と名を打ちましたが、その後も各地で

災害が発生している状況に鑑みて、同様の主旨で開催することになりました。

誰しも断捨離はいつか必要となります。この機会を利用して、身辺整理はいかがでしょうか。2日間ではありますが店を開くという稀有の経験ができると共に、その結果が被災地支援に貢献できる良い機会でもあります。

伊東ミニバス運行

今年の1～2月に行われた第一回実証実験に続いて、本年度は、11月中旬から2月末までの間、第二回実証実験が予定されています。こちらも詳しくは別途お知らせの予定です。本格運行につながるように会員の皆様のご協力をお願いいたします。なお、この取り組みは、先に紹介した「伊豆高原エリアまちづくり協議会」が、伊東市、伊東地域交通基盤協議会と連携して行なっているものです。

編集後記

今号は、会報の発行が始まって以来、初めて16頁の大部になりました。冒頭に記載したように、60周年を機会に「生まれ変わった親和会」を紹介すると共に、親和会を知るための手引きとして、会員の皆様のお役に立てるようにと編集しました。

まだまだ内容に不十分な点もあるかもしれませんが、同封した規約等の三点セットと共に、ぜひ保存しておいてください。



発行責任者

親和会理事長 水野由康

編集

広報部会

福田美津夫・長島朋子

編集委員

濱中淳宏

佐和橋みどり・中西弘子

水野純子・為ヶ井真佐美